

「まわしよみ新聞」はおもしろい。

県内4つの小学校で、今年上半期の神戸新聞「写真ニュース」を使った「まわしよみ新聞」作りを手伝わせてもらった。

淡河小（神戸市北区）のある班はトップ記事がなかなか決まらなかったが、真剣に話し合う姿勢がうれしかった。子どもたちは各自が違うニュース感覚をもっていることに気づいただろうし、決める過程が大切なものだから。この班では、「東日本大震災 10年 各地で祈り」（今年3月）をトップにした。災害の多いこの国で、防災に関心をもち続けてほしいと願う。



トップニュースに、淡路島に新種の恐竜化石（今年5月）を選んだ班が多かった。兵庫のニュースが選ばれるとやはりうれしい。大町小（淡路市）では、阪神・淡路大震災 26年の追悼のつどい（今年1月）をトップに選んだ班もあった。コウノトリが淡路で巣作り（今年2月）の記事を入れ、コウノトリのイラストを描いた班が目立った。

宿南小（養父市）では、城崎マリワールドのトドの記事（今年4月）を入れた班が多かった。古里を大切に思う心がじわり伝わってくる。



記事から俳句を作ってもらった。

探査機「はやぶさ2」からカプセルが帰還（昨年12月）に寄せて「冬空にはやぶさ光（ひかり）大進歩」（宿南小児童）、「冬の空もえて流れし未来の火」（淡河小児童）一。神戸新聞「写真ニュース」を題材にして、遠い場所の出来事に思いをはせる。そんな俳句もあっていい。



新聞のタイトルもつけた。有馬小（神戸市北区）のある班は「寝耳に水新聞」とした。今の世の中、本当に不意打ちのような、寝耳に水の出来事ばかりだ。

次号の写真ニュースについて、自分ならどんな紙面を作るかも考えてくれた。有馬小では、新垣結衣さんと星野源さんの結婚は載せるかどうか（載せませんでした）、メジャーリーグ・大谷選手の活躍はいつ載せるの、と意見を交わした。確かにずっと活躍を続ける大谷選手のニュースはいつ載せたらいいのだろう。オールスターのときかな。

神戸、但馬、淡路一。離れたまちの子どもたちが「まわしよみ新聞」を作ってくれた。次、みんなに会えるのはいつごろかな。

（神戸新聞NⅩ推進部 三好正文シニアアドバイザー）